

# 町小だより

令和元年  
5月30日  
No. 634  
御免町小学校

## 縁の下の力持ち

校長 藤井 聡

5月25日（土）猛暑の中、運動会が行われました。事前準備として考えられることをすべて形にして臨みましたが、不安もありました。しかし、子どもたちは、そんな心配を吹き飛ばしてくれました。暑さに負けず、全力でやり切った運動会となりました。

当日は、早朝より保護者の皆様からおいでいただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

学校には、様々な行事や活動があります。この行事や活動は、子どもたちの日ごろの「学び」の集大成であると言えます。

先日の運動会など、勝敗を決する行事では、勝った子や1位になった子が賞賛され、脚光を浴びます。しかし、日ごろの「学び」を生かしながら黙々と働く「縁の下の力持ち」の存在を忘れてはならないと思うのです。

私は運動会のたびに、以前に出会った一人の子（仮にA子とします）を思い出します。

A子は、物事をよく考えて行動する子でした。そして、友達に対して分け隔てなく優しく接する子でした。これは、低学年のころに友達関係で嫌な思いをしたことで得た「学び」を生かすことができていたからです。

運動会が近づき、学級の中心的存在であったA子は、応援リーダーに推薦されました。私は、当然A子が応援団長になるものと思っていました。ところが、A子は学級内で浮いた存在であった男の子（当時は「ツッパリ」と言われているタイプの子です）を団長に推薦したのです。

この学校は、子どもたちの自主性を大切に育てていました。ですから、運動会練習では、6年生の子どもたちが1～5年生の子どもたちを統率し、指示を出すというスタイルで練習が進められていました。競技の部・応援の部に加え、バック板・総合優勝の四つの賞が設けられ、応援リーダーの子どもたちは、すべての部での優勝を目指してこの運動会に向かっていきました。

運動会に向け、A子は本当によく動いていました。応援演技はただ応援歌を歌うのではなく、構成を考え、音楽と踊りを組み合わせた集団演技になっているのです。教師でも難しいことに『挑戦』しているわけですから、当然壁にぶち当たります。そんな時には応援リーダーを集め、指示を出していきます。「ビシッと決めて！」と応援団長に出番を与え、とにかく自分は「縁の下の力持ち」に徹しているのが分かりました。そして、他の学級が様々なもめごとで活動が停滞している時でも、A子を中心に、この子たちは仲良く楽しそうに動いていました。

運動会の閉会式。結果が発表される時です。結果は、競技の部では1点差で敗れたものの、他の部はすべて優勝。信じられない結果に会場全体からどよめきが起こりました。大声をあげて泣く子どもたち。

校長先生から表彰を受けるクライマックスの場面で、A子は前には出ず、他の応援リーダーに前に出て表彰を受けるよう促しました。どう考えても、A子こそが表彰されるべき存在だったにもかかわらずです。

・・・じつは、カップや賞状を受け取る人数と応援リーダーの数を比べると、一人だけ前に出られなかったのです・・・。

涙が溢れました。一つの物事を立派に成し遂げるためには、それを支える「縁の下の力持ち」の存在が不可欠です。そのことを教え子から教えてもらうことができ、幸せでした。

御免町小学校にも「縁の下の力持ち」がいます。でも、みんなの前でほめたら嫌がるのだと思います。ですから、私は、静かに心の中で拍手を送っています。